

「ぐんま絹遺産」登録

沼田市指定重要文化財

南郷の曲屋

(旧鈴木家住宅)

鈴木家の先祖は、当地に熊野神社を建設するために神官として来村、定着し、代々名主を務め、政治家などを輩出してきました。当家は検地などで訪れる役人の逗留施設でもあり、主屋の上段の間には、付け書院、帳台構えを設け、武家の好んだ正式な書院造りがなされています。

主屋は、東北地方の民家でよく見られる曲屋（まがりや）形式で、突起部分は「うまや」となり、神経質な馬の健康状態を常に把握できるようにしていました。県内では珍しいかやぶき屋根の曲屋形式の民家です。

建物の正確な建造年代は不明ですが、敷地内の稲荷社の側壁に「天明5年10月大吉日」とあることや建築手法などから検討した結果、天明5（1785）年に竣工したと推測されます。

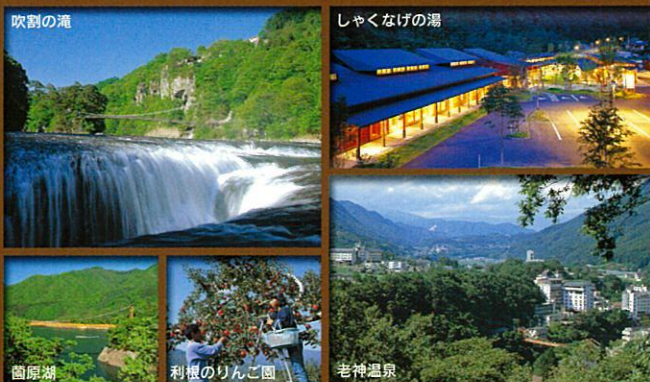
平成16年3月8日には、市の重要文化財として指定されました。

ACCESS MAP



- 関越自動車道沼田I.C.から県道沼田・大間々線で約20分
- 関越自動車道昭和I.C.から約30分

周辺観光スポット



- 開館時間 午前10時～午後4時（通年）
- 休館日 木曜日（祝日の場合はその前日）・年末年始
- 入館料 大人100円、中学生50円、小学生以下は無料

南郷の曲屋

株式会社 利根町振興公社

〒378-0313 群馬県沼田市利根町日影南郷158番地1
Tel.0278-54-8611 Fax.0278-54-8611

沼田市指定重要文化財

南郷の曲屋

(旧鈴木家住宅)



株式会社 利根町振興公社

沼田往還(日光裏街道)の歴史を偲ばせる旧家。



母屋

この建物は、岩手県などの雪国でよく見られる、かやぶき屋根の民家で、母屋に対してL型に曲がっているところから、曲屋と呼ばれるようになりました。L型に曲がっている部分は、「うまや」として数頭の馬の飼育に使われてきました。かやぶき屋根とは、ススキなどの草で屋根をふいた住宅のことです。さらに、養蚕のため、2階に床を張るなど、増築・改修を重ね現在の形になりました。

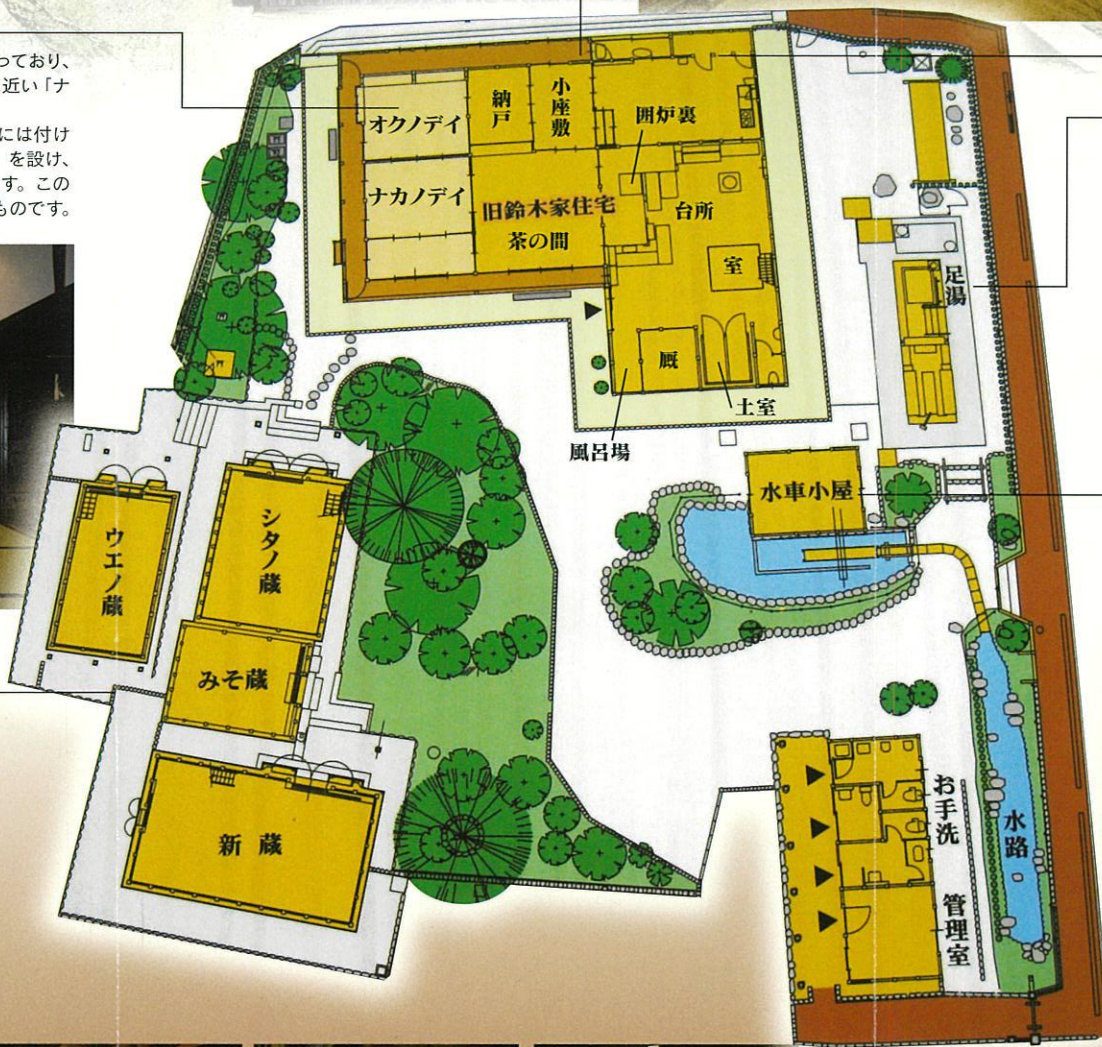


土間

広い土間には台所、厩、風呂場などが配置されています。上部は二階建てになっており、蚕室として使用されていました。土間には食品貯蔵庫として使用していた深さ2mの室があります。かやぶき屋根の虫を駆除するため、囲炉裏裏では定期的に火が焚かれています。

オクノデイ

上段の間である「オクノデイ」は、ほかの部屋より段が高くなっており、主賓が着座し、ほかの来客は主賓に近い人から、オクノデイに近い「ナカノデイ」に着座しました。正面にオドコ(雄床)、メドコ(雌床)を設け、向かって左手には付け書院を、これと対応した右側には敷居を一段高めた「帳台構え」を設け、武家の邸宅に好んで採用された正式な書院造りを構成しています。このような正式な書院造りは県内にも類がなく、特筆すべき貴重なものです。



足湯

南郷温泉(しゃくなげの湯)の源泉を引いてあります。※足湯の利用料金は入館料に含まれています。



水車小屋

水車小屋は、主に脱穀(収穫した稲などを茎からはずすこと)・製糸(糸を作ること)など、生活のために使われていました。



土蔵

ウエノ蔵、シタノ蔵、新蔵の3棟とシタノ蔵に接続してみそ蔵の4つの蔵があります。土蔵(どそう)とは、外壁を土やしっくい(石灰に麻の繊維などを加えた物)などで塗り固めて建てられた、日本の伝統的な保管庫・倉庫のことです。主に火災や盗難防止のために建てられ、後に、裕福さの象徴として建てられることもありました。現在では、当時使用した民具・農具などの展示を行っています。

